

醇風地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年12月7日（金）19:00～20:00
- 2 場所 醇風地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 21名
市出席者 3名（深澤市長、網田都市整備部長、安本地域振興局長）



4 テーマ 地域住民の福祉健康増進と生きがいづくり、学校との連携

5 概要

（地元あいさつ）

醇風地区には41の町内会があり、9ブロックに分割して運営を行っている。世帯数はおよそ2,000世帯だが、高齢者の施設への入居等により増減がある。醇風地区の中心には袋川が流れており、袋川から久松山側を川内、袋川から鳥取駅側を川外と分割して、いろいろな活動を行っている。

近年は様々な災害が発生している。災害時には、醇風地区川内は鳥取市立醇風小学校に、川外は鳥取市立西中学校に避難するという共通理解を図っているが、実際には何が起こるか分からないため、対応に苦慮している。

（市長あいさつ）

醇風地区の皆さんには、日頃から地域づくりの推進、鳥取市の市政についてご協力いただいております。感謝申し上げます。今年から、ざっくばらんに意見交換できるようにと地域づくり懇談会の進め方を少し変えています。大変限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見をいただきたい。

醇風地区の取組みの説明

<テーマの背景>

地域の高齢化が進行し、地域住民の活力と結びつきの低下が懸念されている。明るく活力ある地域づくりへの取組みがこれまで以上に必要となっている。醇風地区では、将来の地域の主役となる子どもたちの育成に、学校と地域が連携して関わり、その自覚を深めていきたいと考えている。しかし、地域の担い手の高齢化や周辺の通学路の交通安全の問題など、地域の将来を担う子どもたちを育てていく上で、課題が挙げられている。

<地域の取組み>

年1回、ふれあいまつりを開催している。準備は地域の小学生や若い方にも積極的に手伝ってもらっている。また、まつりには、西中の吹奏楽部による演奏や、城北高校による書道パフォーマンスなど、まちづくり協議会だけでなく、小中高を巻き込んで実施している。

袋川の景観の素晴らしさを子どもたちに伝えていこうと、保育園と小学校に声かけを行い、ぼんぼりづくりに取り組んでいる。昨年度は約400個作成し、袋川沿いに設置した。今年度は幼稚園にも声かけを行う予定としている。

交通安全については、交通安全指導員や地域住民で構成される防犯パトロール隊、小学校のPTAなどが立哨活動を行い、児童生徒が安全に登下校できるよう取り組んでいる。また、地区の交通安全協会が中心になり、年に数回交通安全教室を開催し交通安全意識の啓発を行っている。小学校においても自転車教室を開催し、交通ルールや自転車の乗り方、危険性について学んでもらっている。

(地元)

醇風地区では、地域住民の安全意識と防災力の高揚を図り、協力して減災への実践行動をとることを狙いとして、平成21年度から防災訓練を実施しており、避難所開設訓練や防災リーダーの育成等の研修会を行っている。

まちづくり協議会の活動は一定の成果を上げているが、発足当初から役員が固定化し、役員の高齢化、若い担い手の不足等の課題を抱えている。近い将来、活動の停滞化が懸念されており、良い知恵をいただきたい。

醇風地区は、将来の地域を担う主役である子どもたちを何よりも大切にしている。学校教育や行事に協力し、登下校時には、交通安全指導員、地域住民、PTA等が連携して見守り活動を行っている。しかし、子どもの命が脅かされる事例もあり、長年の懸案事項となっている。

(市長)

ふれあいまつりは、およそ2,000人の方が集まり、大変盛大に開催されておられ、非常に素晴らしいことだと思う。また、防災訓練では、具体的に避難所設営の訓練をしており、大災害が発生したときを想定した良い取組みだと感じた。今年は多くの災害が発生した

年だったが、各地域で日頃から訓練を行っていただくことは大変ありがたく、市としても支援の充実を図っていききたい。袋川土手沿いの和紙の明かりも大変すばらしい。

鳥取市は、次世代の鳥取市を担うひとつづくりを地方創生の取組みの第一の柱に掲げている。醇風地区は、将来を担っていく子どもたちを何よりも大切にしておられるとのことで、今後も引き続き取組んでいただけたらと思う。

(司会)

はじめに、地域の高齢化、担い手不足について、市の意見をいただきたい。

(市長)

鳥取市はもとより、国の一番大きな課題が、人口減少、高齢化、担い手不足である。解決の決め手となる方策はなかなかない状況だが、いろいろなことに取組んでいくことが肝要である。住み慣れた地域で皆が支え合い、尊重し合って心豊かに暮らしていける鳥取市であり続けるようにすることが、我々の究極の使命だと思っている。具体的には、介護、在宅医療といったものを提供できる体制をつくり、鳥取市及び東部圏域の4町と協力して取組んでいくところである。難しい課題ではあるが、一つずつ着実に取組んでいくしか解決方法はないと思う。

(地元)

醇風地区にとって、生活に密着している出合橋について説明させていただきたい。

出合橋は醇風地区の川外と川内を結ぶ非常に重要な生活道路であり、朝晩、児童生徒や社会人等の通学・通勤、また買い物の際にも利用されている。出合橋は昭和29年に竣工され古くなっており、また幅員が狭い橋である。それにも関わらず、交通量が非常に多く、通行する際には注意を払う必要がある。

非常に難しい問題ではあるが、何らかの対策を講じる必要がある。鳥取市にはまず現状を認識いただき、地元との共通認識を図った上で、前向きな回答がいただければと思う。

(市長)

市としても、出合橋の幅員が狭く、通行しづらい状況を認識しており、対策の必要性があると考えている。鳥取市はおよそ1,300基の橋を管理しており、必要に応じて補修等の対応を行っている。出合橋は昭和29年竣工であり、古くなっているが、定期的に点検を行っており、現段階では橋の強度に問題はない。これからも引き続き安全点検を行っていききたい。

幅員が狭いことは大変危険である。いくつかの解決方法が考えられ、橋の架け替えも一つの方法だが、一挙には難しい。また、歩道部分を確保する方法として、歩道橋を造る、あるいは張り出し部分を造って歩道とする方法や、緊急避難的に車両の通行制限をかける方法、歩道部分のグリーンゾーンを拡げるといった方法が考えられる。地域の従来からの大きな課題であると認識しているので、できるところから一つずつ取組んでいきたい。

(都市整備部長)

鳥取市は、管理しているおよそ1,300基の橋に対して、平成18年度から点検を実施している。出合橋は、平成19年、25年、29年の3回にわたり点検を行った。平成26年に道路法が改正され、5年に1回、近接目視とあって、実際に近くで人間の目で見て橋の状況を詳細に確認することが必須になった。点検の結果、出合橋の機能に支障は生じておらず、予防保全を行いながら、長く健全に使っていきたいと考えている。鳥取市の全ての橋を維持管理していくことは大事業である。更新や修繕に一時に大きなお金をかけるのではなく、前もって事前の点検をしていくことにより、修繕費等を平準化しながら、それぞれの橋の健全度を保っていきたい。

醇風地区にゾーン30のエリアを設定し、車の最高速度を時速30kmに抑えるため、規制、外側線、イメージランプの設置、歩行者が安全に道路を通行できるように歩道の整備やグリーンベルトの設置等の取組みを進めてきた。出合橋の取り合い部分には、歩道と車道の間に縁石ブロックを設置する改良を行った。車を運転している方から見て、歩行者が歩くスペースが明らかになるように、出合橋にグリーンベルトの設置も計画している。

(地元)

出合橋は、今まで事故がなかったことが不思議なくらい非常に危険である。歩道がつくってあるが、両側から車が来た場合には役に立たない。多くの人利用される橋であるので、一日も早く安全な状態となるようにしていただきたい。

(市長)

橋を通行される方に危険がないようにすることが目指すところであり、例えば、朝夕の時間帯に限って、交通規制をすることも一つの緊急の対策だと思う。橋を拡張して歩道部分を造ることも一つの方法だが、建設当時の資料がないため、下部構造が確認できない状況であるので、調査方法を検討してみたい。

(地元)

出合橋付近には、グリーンベルトや危険防止のポール、縁石カバー等、いろいろな手立てをしていただいていることは理解している。しかし、肝心の出合橋の上の対策がされていない。

(地元)

出合橋の建設資料がなくても、橋が丈夫であるならば、歩道部分を拡張できるのではないだろうか。橋の拡張ができなくとも、歩道橋を造ってもらうことはできないだろうか。

また、出合橋に時間限定であっても交通規制を行ったら大変不便になる。

もう一つ、積雪時には出合橋も除雪されるが、橋の両脇に雪が積まれた状態となり、歩行者が歩く場所がなくなる。確実に歩道を確保していただくようお願いしたい。

(市長)

出合橋の建設資料がないため、下部構造の調査を検討してみたい。歩道橋を造ることも一つの方法だと考えており、内部では経費の試算を行い検討はしているが、今すぐに行うことは難しい。

出合橋に交通規制を行ったら、通行される方は不便になる状況はあるかと思うが、一つの方法としてあり得るのではないかという提案である。

積雪時の状況については、担当課から報告を受けている。平成29年の大雪を教訓に除雪基準や除雪基地を変更している。今後もしっかり除雪を行いたい。

(都市整備部長)

平成29年の大雪を踏まえ、鳥取市としても除雪体制の改善に取り組んできている。一つ目は、除雪基地を市街地に近いところに変更し、少しでも早く除雪に着手できるような体制を整えた。二つ目は、除雪対象路線のうち、重点除雪路線を決め、優先的に除雪に取り組むように運用の見直しを行った。出合橋も重点除雪路線であるため、しっかり除雪に取り組んでいきたい。三つ目は、除雪作業出動基準を引き下げ、5cmから10cmの積雪深が見込まれる場合に除雪を行うこととした。最後に、除雪対象路線以外の生活道路については、地域の皆さんで除雪していただくよう、町内会に小型除雪機を貸与している。いろいろな取り組みを行い、しっかりと除雪活動を行っていきたい。

(地元)

出合橋前に歩行者の信号待ちスペースがつくってあるが、雨の日等は特に子ども等が飛び出してくる危険を感じている。橋を拡げることしか解決方法はないのではないだろうか。

(市長)

最終的な解決方法は橋の架け替えしかないかと思うが、今すぐにはできないことではない。緊急的に交通規制を行う、70cmの歩道部分をもう少し確保するなど、可能なところから行っていきたい。

(市長あいさつ)

皆さんの思いに十分お応えできず大変申し訳ない。出合橋の状況、課題は認識しており、今後もいろいろな形で、少しでも安全が確保できる方策がないか考えていきたい。

歩道橋または橋の拡張を行い歩道部分を確保することもあり得るが、大きな経費を要するものとなるため、可能性を探ってみたい。時間制限の交通規制についても、根本的な解決にはならないかもしれないが、歩行者の安全確保ができるよう警察とも相談して検討していきたい。すぐに橋を架け替えるということにはならないが、いろいろなことに取り組んでいきたい。